

第8回ユネスコスクール全国大会 ―持続可能な開発のための教育（ESD）研究大会― 参加・JGN ブース展示報告

主催：文部科学省／日本ユネスコ国内委員会

日にち：2016年12月3日 9:45～17:15

会場：金沢大学 角間キャンパス

参加者：中田 悟、日比野 剛、中村真介、廣川清美、大西龍一、大橋加奈（白山手取川 GP）
町 澄秋（恐竜溪谷ふくい勝山 GP）

ジオパークは2015年11月にユネスコの正式事業となった。今後、これまで以上にユネスコの理念に沿った活動が求められ、ユネスコの推進するユネスコスクールやESDとの連携も必要となると考えられる。ユネスコスクールは、ESDの実践の場と位置付けられており、その中で持続可能な発展を目指すジオパークを扱う意義は大きいと考えられ、ユネスコスクールとジオパークが連携することで教育を受ける子どもたちに大きなメリットがもたらされるものと期待できる。今回、ユネスコスクール全国大会に参加することで、ユネスコスクールに登録されている学校にジオパークへの関心を寄せていただき、両者をつなげる機会を創出することができると考え、教育WGを中心にブース展示を行った。経緯と参加者の所感を以下に報告する。

参加経緯

2015年5月、教育WG 日比野剛、蒔田尚典（十勝岳 GP 構想）と中村真介で文部科学省ユネスコ国内委員会事務局を訪れた。その際に当イベントについて説明があり、ユネスコの正式事業になったジオパークがユネスコスクールと連携する意義を強く感じたため、参加する方向で活動することとなった。

事前準備

- 8月 ブース出展に関わる事前説明会に参加
- 10月 JGN 全国大会の空き時間にてブース出展の内容の打ち合わせ
JGN 全国大会教育分科会でユネスコスクール全国大会のPR
- 11月 展示ブース用ポスター作成

第8回ユネスコスクール全国大会大会背景

2015年9月、国連において「持続可能な開発目標（SDGs）」が設定され、ESDはさらに広く、大きな役割を担うこととなった。日本のESDの推進拠点であるユネスコスクールは、すでに1,000校近くとなり、加盟数が世界で最も多い国として、国際的にもその活動に注目が寄せられている。近年では、ユネスコスクールの連携が重要視され、ユネスコスクール同士、地域、自治体、企業、そして海外へと連携が着実に進められている。今大会では、「つなぐー全国へ、世界へ、そして次世代へ、未来へ」をテーマに、連携によりさらに広がるESDの意義、役割、可能性を検討し、未来へつなぐ教育であるESDの深化と拡充が目指された。

大会の様子

大会は、講演、パネルディスカッション、12のテーマによる分科会、全大会と行われた。また、ブース展示もあり、大会開始前、休憩時間中には、展示パネルに人が集まった。大会には、600名を超える参加者があった。

ブース展示を通じたジオパーク PR

ブースでは、JGN 正会員・準会員地域を紹介したマップとジオパークを活用した教育についてのポスターを展示した。また、(株)古今書院に提供していただいた閲覧用の「月間地理 (学校でジオパーク! の特集掲載号セット)」を展示、ジオパーク関係のパンフレット (JGN パンフレット、白山手取川 GP、恐竜渓谷ふくい勝山 GP、立山黒部 GP) の配布を行った。

パンフレットは50部程度が持ち帰られていた。これまでジオパークを知らなかった教諭等には、少なくとも目に触れる機会を提供できたと思われる。JGN 会員・準会員地域内のユネスコスクールに加盟している学校の ESD 担当者には、この大会でジオパークのブースに触れることで、ジオパーク学習が ESD 教育に通じると知ってもらい、今後のジオパークを活用した ESD につながればいいと感じた。こういった教育関係者が集まる場にもっと積極的に出ていくことが必要だと感じられた。

ブース前で話した人では、ジオパークを知っている人、知らない人、どちらもわりといた。知らない人も、ジオパークの話を知ると、何か学校教育のなかで利用できれば、という意見は多く聞かれ、興味としては持ってもらえた。知っている人の中には、使いたいという思いはあっても、学校からの距離の問題や、内容についていまわからない (学習利用としては、わかりやすさ、も必要) という意見が聞かれ、各ジオパークにおける具体的な教育活動での利用方法、教科書とのリンクについての情報提供がもっと必要であると感じた。



大会全体所感

ESD におけるジオパークを活用した実践例を示していくことで (ジオパーク学習を通して SDGs のどこを目指した ESD が可能なのかを示していく)、ジオパークを活かした教育の意義を感じてもらえ、子どもたちにとってよりよい教育へと繋がっていく可能性があると感じた。今後、JGN加盟の各ジオパークの教育活動から、ESD 実践地域 (人、学校) に積極的に働きかけ、ジオパーク地域における教育活動の有効性を広めていければ、ジオパーク地域にとっても ESD 実践においても有益なのではと思われる。